

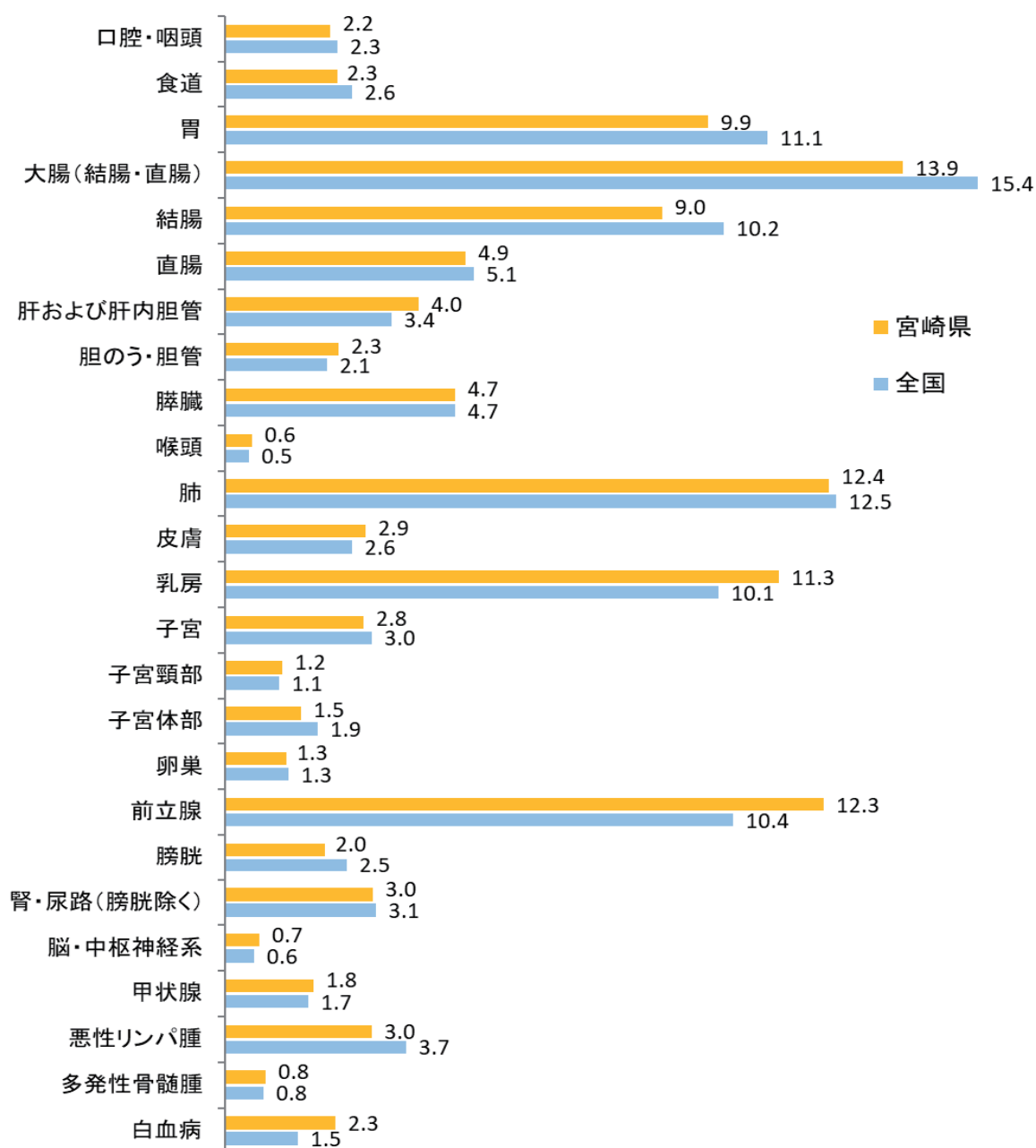
4 2022 年がん罹患の概要

(1) 全体の概要 : 表 1-A (上皮内がんを除く) から作成

2022 年宮崎県の罹患数は、男性 4,927 件、女性 3,664 件の、合計 8,591 件であった。

総計より、最も多いがんの部位割合は大腸 (結腸・直腸) であり 13.9%、肺 12.4%、前立腺 12.3%、乳房 11.3%、胃 9.9%と続く。男性では、前立腺 21.4%、大腸 (結腸・直腸) 14.7%、肺 14.5%、胃 12.3%、肝および肝内胆管 4.4%であり、女性では、乳房 26.3%、大腸 (結腸・直腸) 12.7%、肺 9.5%、胃 6.7%、子宮 (子宮頸部・子宮体部・子宮その他) 6.7%であった。

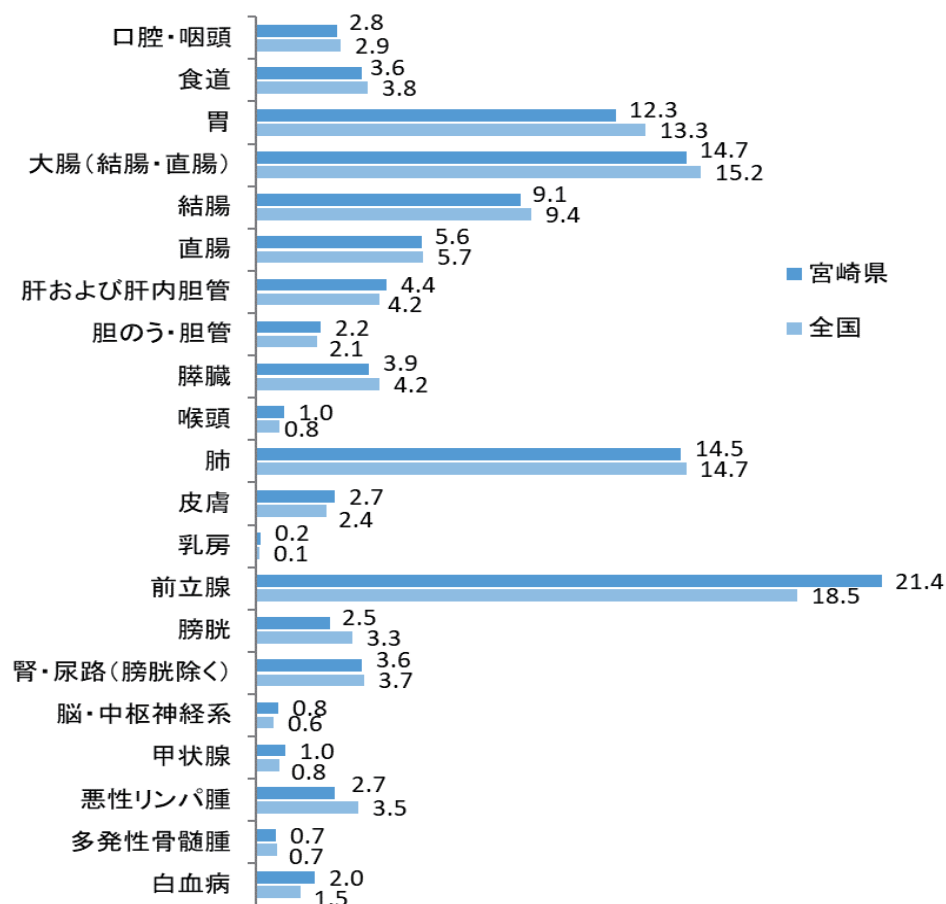
2022年罹患部位別割合(%) (全国比較)



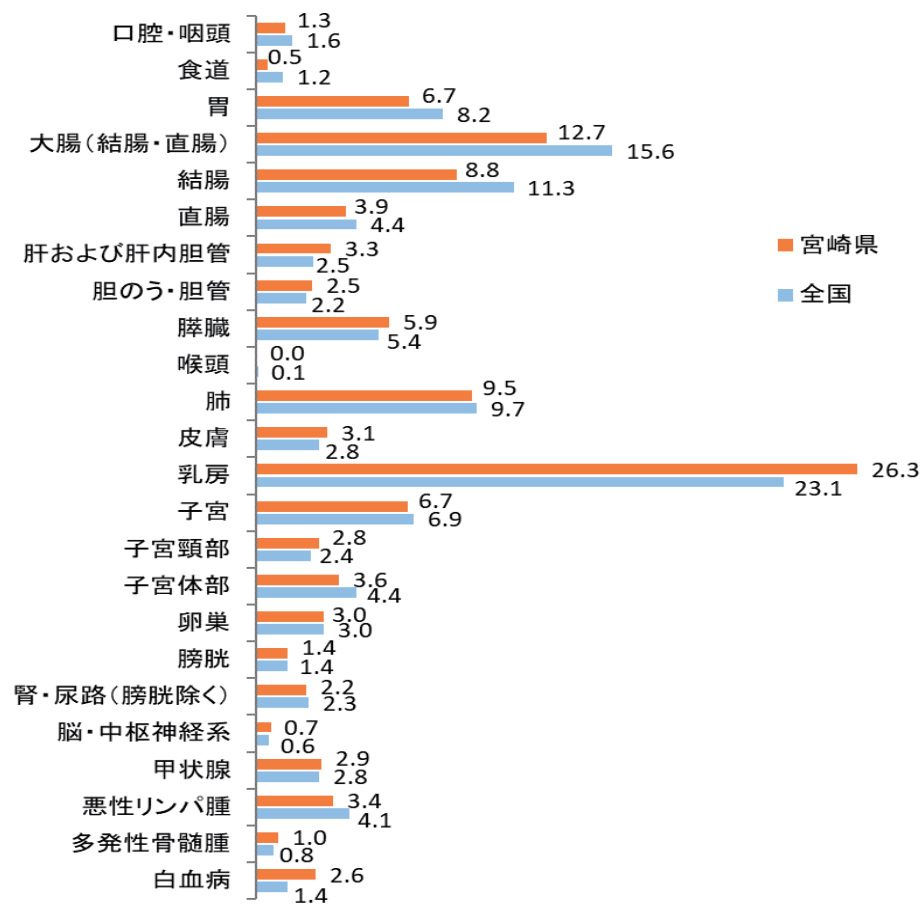
出典：全国値は、

厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課「全国がん登録 罹患数・率報告 2022 年」から抜粋

男性 罹患部位別割合(%) (全国比較)



女性 罹患部位別割合(%) (全国比較)



(2) 年齢階級別に見たがんの罹患：表 2-A（上皮内がんを除く）から作成

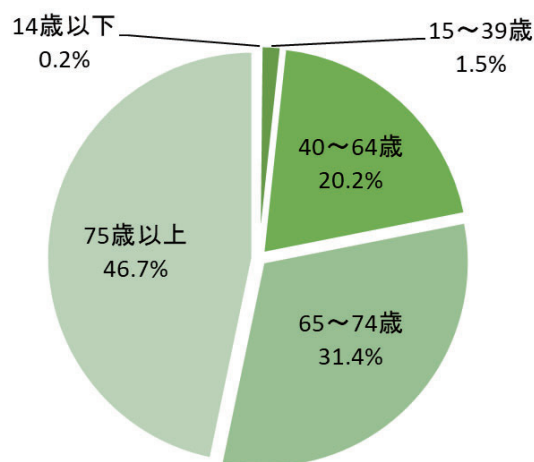
年齢階級別にみると、75 歳以上の割合は全体では 46.7%、男性 47.6%、女性 45.6%であった。40～64 歳では、男性 15.2%、女性 26.9%を占めている。

男性の 50 歳から大腸（結腸・直腸）、55 歳から食道、肝及び肝内胆管、肺、前立腺が増加している。

女性では 35 歳から乳房、40 歳から大腸（結腸・直腸）、45 歳から子宮（子宮頸部・子宮体部・子宮その他）、50 歳から肺が増加している。

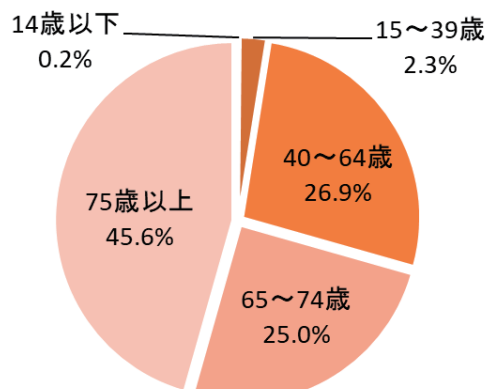
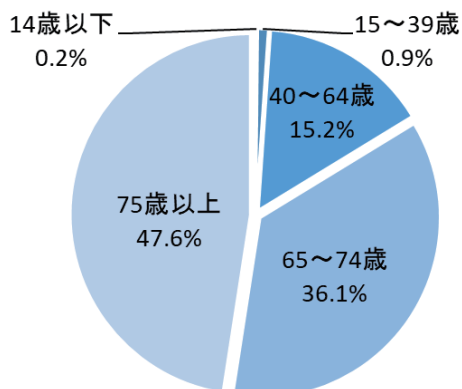
全体で見ると、45 歳から肺、50 歳から大腸（結腸・直腸）が徐々に多くなっている。

全体(件)	
14歳以下	14
15～39歳	132
40～64歳	1,734
65～74歳	2,697
75歳以上	4,014
合計	8,591



男性(件)	
14歳以下	8
15～39歳	46
40～64歳	749
65～74歳	1,781
75歳以上	2,343
合計	4,927

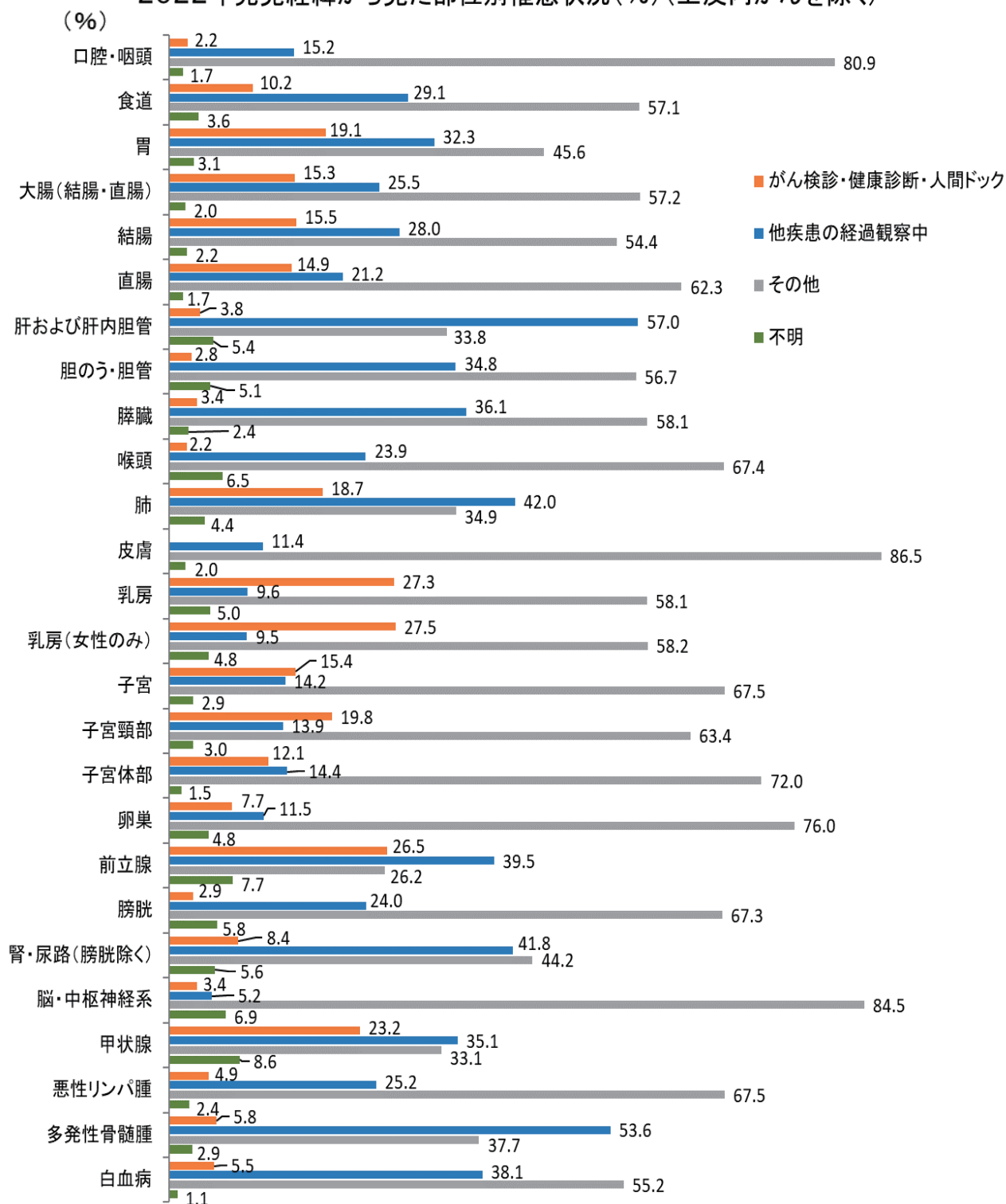
女性(件)	
14歳以下	6
15～39歳	86
40～64歳	985
65～74歳	916
75歳以上	1,671
合計	3,664



(3) 発見経緯から見たがんの罹患 : 表 4-A (上皮内がんを除く) から作成

部位別に見ると、「がん検診・健康診断・人間ドック」で発見された割合が高いのは、乳房、前立腺、甲状腺であった。また、「他疾患の経過観察中」で発見された割合が高いのは、肝および肝内胆管、多発性骨髄腫、肺、腎・尿路(膀胱を除く)であり、「その他(自覚症状による受診を含む)」で発見された割合が高いのは、皮膚、脳・中枢神経系、口腔・咽頭であった。

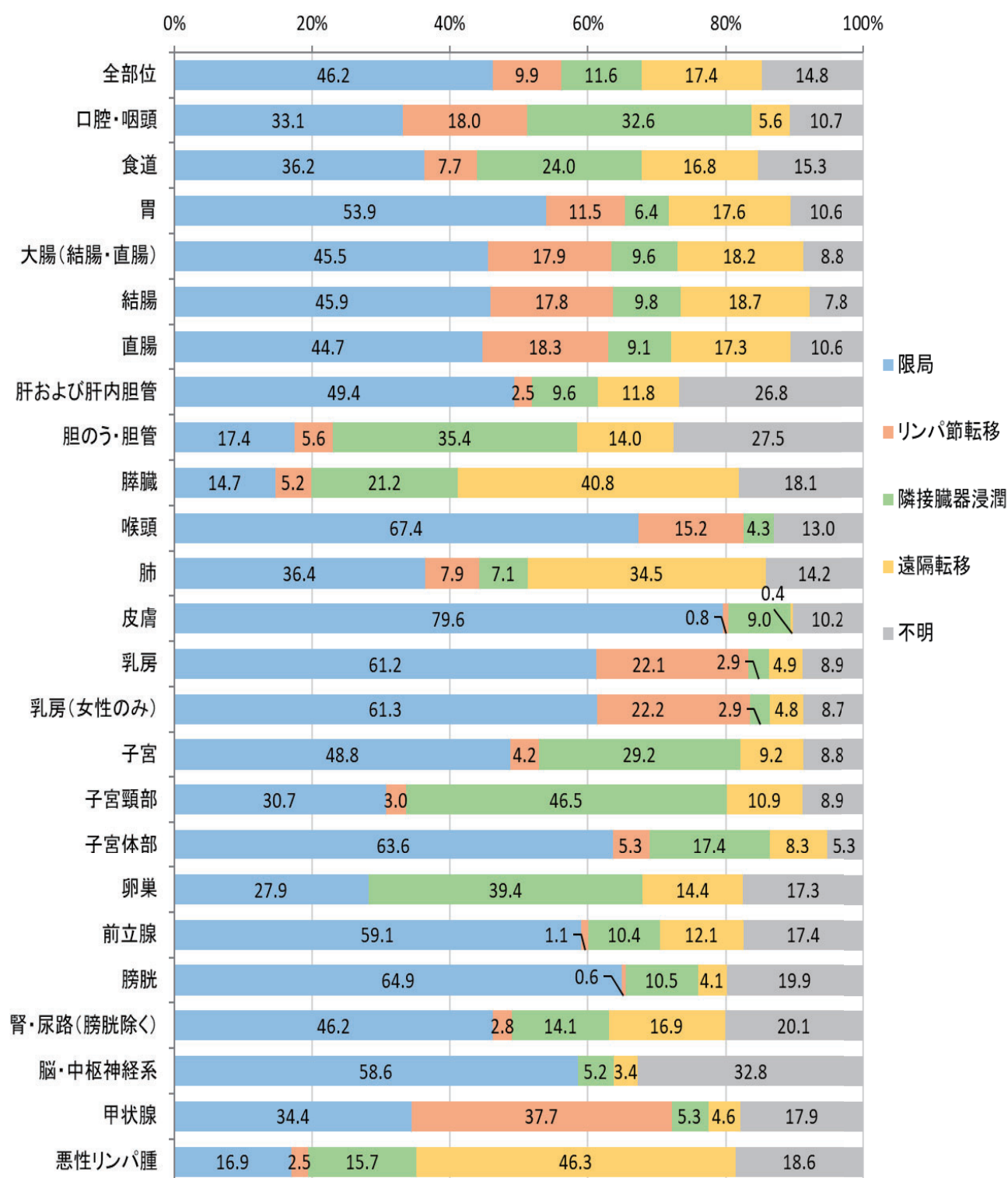
2022年発見経緯から見た部位別罹患状況(%) (上皮内がんを除く)



(4) 進展度分布から見たがんの罹患 : 表 5-1-A (上皮内がんを除く) から作成

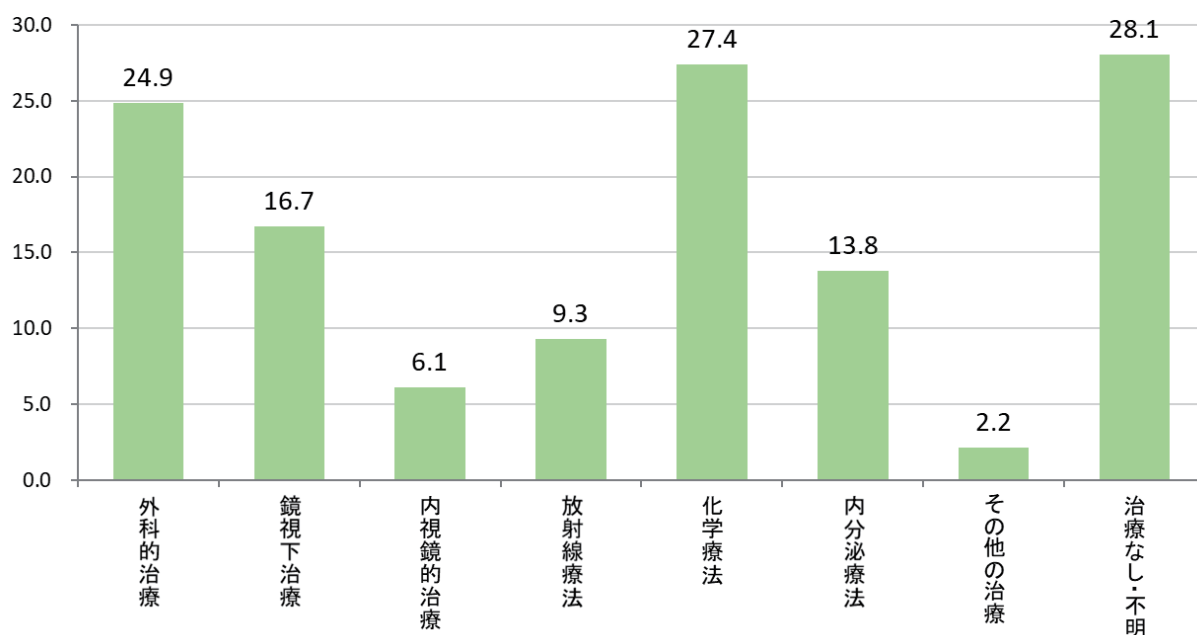
全部位の進展度を見ると、限局 46.2%、リンパ節転移 9.9%、隣接臓器浸潤 11.6%、遠隔転移 17.4%、不明 14.8%であった。限局の割合が 50.0%以上の部位は、胃、喉頭、皮膚、乳房、子宮体部、前立腺、膀胱および脳・中枢神経系であった。

2022年進展度分布から見た部位別罹患状況(%) (上皮内がんを除く)



(5) 初回治療内容から見たがんの罹患：表 6-A（上皮内がんを除く）表 6-B（含む）から作成
 上皮内がんを除く全部位の初回治療内容を見ると、外科的 24.9%、鏡視下 16.7%、内視鏡的 6.1%であった。また、放射線療法 9.3%、化学療法 27.4%、内分泌療法 13.8%であった。
 なお、上皮内がんを除く、含むともにそれぞれ重複を含むため合計は 100%にはならない。

2022年初回治療内容 全部位8277件の割合(%) (上皮内がんを除く)



2022年初回治療内容 全部位8988件の割合(%) (上皮内がんを含む)

